

韓国京畿道現職日本語教師研修の教材及び授業アンケート調査

—特集「日本語を楽しむ」—

高橋 純子

要 旨

京畿道外国語教育研修院での現職韓国人日本語教師研修において使用する中上級用の教材の1つとして特集「日本語を楽しむ」を2005年に作成し、2005年から2009年まで5年間使用してきた。本教材は(1)日本語のリズム七五調 (2)言葉あそび (3)落語の3つのテーマからなり、日本語の特徴を理解し、実際の創作活動を通じて日本語のリズム、言葉あそびの感覚を体得して行くことを意図して作成された。授業では、学習者による自律学習へ導くこと、学習者の情報収集、情報及び意見交換の場を設け、相互学習を促進することを狙いとした。本稿では、2005年度から2009年度の5年間の成果と変遷を学習者からのアンケート及び授業者の観察から考察する。

【キーワード】 韓国人日本語教師 日本語の特徴 情報収集 自律学習 相互学習

A Survey Report of Teaching Materials and Class Activities of “*NIHONGO O TANOSHIMU*” for the in-Service Training of Korean Language Teachers of Japanese

TAKAHASHI Junko

【Abstract】 This is a critical report on the results of surveys conducted in 2005, 2008, and 2009 about teaching materials called “*NIHONGO O TANOSHIMU*”, which were created in 2005 for the training program for Korean teachers of Japanese at the Gyeonggi-do Institute for Foreign Language Education. “*NIHONGO O TANOSHIMU*” has three parts, (1) Japanese poetry meter (2) puns and riddles (3) *RAKUGO*. The textbook's main objective is to help learners grasp the characteristics of Japanese language, not only through instruction but also through the creation of short poems and other activities. Classroom activities are aimed to encourage independent study and peer learning.

【Keywords】 Korean teachers of Japanese, characteristics of Japanese rhythm, Information collection, Autonomous learning, Peer learning

1. はじめに

韓国京畿道外国語教育研修院は、英語を始め、中国語、日本語の京畿道内の現職語学教師の研修を定期的実施している。筑波大学留学生センターは、2005年度より始まった中等教育機関の現職日本語教師研修プログラムの必須科目である「文法」「会話」「聴解」「語彙・作文」「読解」「特集」の教科書作成、京畿道平澤市における国内研修、さらに日本での1カ月間の海外研修に携わってきた¹。

本稿は「特集 — 日本語を楽しむ —」の教科書、および授業に関する研修生の反応をアンケート結果と2006年～2009年度までの4期を通して授業を担当した筆者の観察に基づく報告である。

2. 教科書「特集 — 日本語を楽しむ —」の制作意図

2.1 教科書「特集」制作の背景

現職日本語教師を対象とした日本語研修では、研修生自身の日本語力向上に加え、研修後、各教師が職場の教室に持ち帰り利用できる教材、あるいは教材作成のアイデアも求められている。韓国の中高等教育における語学教育の場においても日本文化理解、日本人の生活文化、言語行動への理解を促すことが目標としてかけられているという。俳句・川柳、なぞなぞを始めとする様々な言葉遊び、そして落語といった日本人の生活に根差した日本語文化を紹介しようという背景のもと教科書「特集」を制作した²。

2.2 教科書「特集」の構成

本教材は3つのテーマからなる。1) 日本語のリズム七五調：俳句・川柳・標語を扱う。2) ことば遊び：同音異義語に注意を向け、なぞなぞ、シャレ・ダジャレ、言い間違い、動物の鳴き声など多岐に渡る「掛け言葉」を扱う。3) 落語：漢字の読み方をめぐる滑稽な話「平林」を中心に学ぶ。2009年度は、新たなテーマ「句会」が加わった。

3. 授業「特集」

3.1 授業時間とコマ数

1コマ90分を3回で行う。従って、1つのテーマを90分1コマで行うことになる。2009年に関しては、4つ目のテーマ「句会」が1コマ増え、4回の授業を行った。全体の時間割編成の結果生まれた4つ目のテーマ「句会」は、それまで3コマという厳しい時間制限の中、なんとか時間を絞り出して行ってきた活動であった。2009年度は、独立して句会に1コマ使えるようになり、研修生の意見・感想交換に十分時間をかけられるようになった。

短い授業時間で教科書の全てを網羅するのは教師、研修生にとっても負担が大きすぎる。研修生のレベルに応じて柔軟に学習活動を加減できるよう授業設計をした。授業では取り

上げなかった項目に関しては、関連HPが教科書に記載されており、余裕のある意欲的な研修生は、そこから様々な情報を収集できるようになっている。

3.2 授業の流れ

授業の柱となるのは、現職教師である研修生の主体的学習である。研修担当教師からの情報提供を待つのではなく、好奇心を持って、自律的に授業に取り組んでもらおうという意図からである。

授業は次のように進むことを前提としている。

- 1) インターネットや文献を探し、下調べをする。
- 2) 研修生同士での情報交換
- 3) 課題に取り組みながら基礎知識を学ぶ
- 4) 創作活動
- 5) 作品観賞
- 6) 研修生同士での批評・意見・感想交換
- 7) 個人での発展学習

4. アンケート調査と結果

4.1 実施方法

選択と記述式のアンケート用紙を作成し、(資料参照)配布した。2005年度は、ハングル表記のアンケート用紙を使用した。回答の記述もハングル表記でよいことにした。これは、研修の最終週は「特集」のアンケートのみではなく、研修全般についてなど、各種アンケート調査が行われることになっており、研修生の負担が大きくなる恐れがあるからであった。日本語でのアンケート内容理解、記述に時間がかかること、日本語では表現しにくいことも母語であれば自由に記述できるであろうとの配慮からであった。

当初、この現職日本語教師研修プログラムは、日本語教育歴の長い教師の日本語力向上を目指したものであった。そのため、初年度2005年の研修に参加した研修生は、年齢層も高く、日本語教育のベテランではあるが、日本語を使いこなすという面ではその機会にあまり恵まれていなかった。アンケートの正確な内容理解をしてもらい、より確かな記述回答を得ようとした結果である。2005年度に関しては、承諾書を取り、研修生全員の回答を得た。2006年、2007年に関しては、上述したように、他のアンケート調査も数多くあり、研修生の負担軽減のため、「特集」に関してのアンケートは実施しなかった。2008年、2009年のアンケートはすべて日本語表記であった。研修は、年を重ねるに従い、研修生の年齢構成も変化し、来日経験のある若い教師が多くなり、様々な場面でごく自然に日本語を使用する研修生が増えたためである。とは言っても、研修の最終週は、皆忙しい

時間を過ごす。アンケート調査が研修生の負担になってはいけない。そこで、2008年、2009年に関しては、協力してもらえぬ研修生からのみ回答を得た。アンケート用紙を全員に配布し、回収ボックスを設置し、そこに入れられた回答のみを回収した。

尚、2005年にはテーマ3「落語」に関する項目があったが、2008年、2009年には簡素化のため省いた。2009年は「特集」の授業が研修の時間割の最終週に配置され、アンケートへの回答時間が短かったなどの理由から、回収率が低かった。

表1 アンケートの回収人数

	2005年	2008年	2009年
研修生の人数	43名	47名	47名
回答した人数	43名	31名	21名

以下、アンケートの質問項目ごとに結果をみていく。

4.2 特集「日本語を楽しむ」の全体的評価

アンケート作成当初は「日本語を楽しむ」の教科書についての調査を意図していたが、回答する側としては教科書と授業は一体となっていたであろう。以下、教科書と授業についての全体的評価として結果をみていく。資料1参照。

表2 全体的評価

	日本語能力向上に役立つ	日本語能力向上に役立たない	日本語教育に役に立つ	日本語教育に役に立たない	日本語能力、教育両面で役に立つ	日本語能力、教育両面で役に立たない
2005年	14	2	35	0	0	0
2008年	15	3	19	3	16	1
2009年	10	1	16	3	5	1

以下のようなコメントの記述があった。日本語表記のコメントは原文のまま、ハングル表記のコメントは日本語訳を記載する。

- 1) 勉強しなければならないと思うようにしてくれた。(2005年度日本語訳)
- 2) でも、とてもおもしろくて本当に役に立ちました。私たちが韓国で日本語の専門家として生きていくのに役に立ちました。(2008年 カ「自分の日本語能力向上、日本語教育への応用両面で役に立たなかった」を選択した回答者)
- 3) 頭韻詩は初級レベルにも教えられるし、リズムがあっていいです。俳句や川柳も面白い。まさに言葉の遊びです。(2008年 オ「自分の日本語能力向上、日本語教育への応用両面で役に立たった」を選択した回答者)

- 4) 日本語教師なら、必ず勉強しなければいけないと思う。(2008年)
- 5) 俳句や川柳など日本独特の文学を読んだり、楽しんだりして面白かったです。俳句にも興味を持つようになりました。(2008年)
- 6) 外国語学習者にとって、ただ学問的な意味でなく、たのしめる相手として接するきっかけがとても大事であると実感できた。(2008年)

「日本語を楽しむ」の教材・授業に関しての全体的評価は高いと言えよう。ウ「自分の日本語教育の幅を広げたり、応用するのに役に立った」の回答がどの年度も多かった。これは、直接、自身の日本語能力の伸展や、職場での日本語授業にそのまま適用できるわけではないが、広く「教養」という意味で知的好奇心を刺激することができたのではないかと思われる。

4.3 難易度

難易度については、以下のような結果を得た。

表3 難易度

	易しい	丁度よい	難しい
2005年	1	41	1
2008年	5	27	1
2009年	4	16	1

以下のようなコメントの記述があった。日本語表記のコメントは原文のまま、ハングル表記のコメントは日本語訳を記載する。

- 1) 日常的な会話とは違うのだから、難しいのではないかと心配したが、そうでもない。今はちょうどいいが、時間があつたら、もっと深く勉強して、ちょっとだけ難しくしてもらってもいいのではないかなと思います。(2008年)
- 2) 楽にできてよかった。(2008年)

以上の結果を見ると、難易度に関しては、あまり偏りはなかったと言えよう。難しいという回答が各年度に1名ずつあるが、他の質問項目へのコメントや後述する各学習項目の難易度調査への回答を見ると、「難しい」ことは必ずしも「面白くない」「役に立たない」ことを意味するわけではないようだ。むしろ、易しいと答えた研修生に対して、どのような手当ができるのか考える必要があるだろう。

4.4 関心度と発展

教材および活動内容への興味、今後の授業での応用への関心度を尋ねた。

表4 興味と授業での発展への関心度

	創作活動を楽しめた	言葉遊びに興味を持った	リズムや音に敏感になった	聞き間違い、いい間違いを楽しめるようになった	授業で採用、応用してみたい	好きな活動ではない
2005年	20	17	18	20	23	1
2008年	16	23	19	10	12	0
2009年	10	11	6	7	5	2

以下のようなコメントの記述があった。日本語表記のコメントは原文のまま、ハングル表記のコメントは日本語訳を記載する。

- 1) (職場での) 生徒を対象にするには、この授業の内容は難しいが、このような授業方法を活用し、やさしく教える方法を開発したいと思った。(2005年度日本語訳)
- 2) 作りに時間たくさんかかるんだけど、実はあまり役に立たない。(2009年)

否定的な選択肢はカのみであるが、それを選んだのは2005年度に1名、2009年度に2名がいた。その理由として書かれていたのは、創作に時間がかかるが、その成果があまり見られないというものであった。

2005年度の研修生は、オ「自分の日本語授業で採用、あるいは少し形を変えたりして応用してみようと思った」を半数以上が選択した。しかし、2008年、2009年度では、ア「簡単な言葉を使った創作活動を楽しめた」、イ「母国語や外国語での言葉を使ったいろいろな遊びに興味を持った」の回答が多かった。具体的な教材としての興味より、日本語自体を楽しむという様子がうかがわれた。

4.5 テーマごとの評価

4.5.1 面白さ

本教材は3つのテーマからなるが、そのテーマごとの感想を尋ねた。表の番号は、以下の3つのテーマに対応する。

- (1) 日本語のリズム 七五調 川柳、俳句、標語、現代詩
- (2) 言葉あそび 同音異義語、シャレ、オノマトペア、なぞなぞ
- (3) 落語「平林」

テーマ毎の面白さについては、以下のような結果を得た。

表5 面白さの順位

	1-2-3	1-3-2	2-1-3	2-3-1	3-1-2	3-2-1
2005年	5	5	7	14	6	5
2008年	18	3	6	1	1	2
2009年	8	2	4	2	1	1

表6 面白さ

	1	2	3
2005年	10	21	11
2008年	21	7	3
2009年	10	6	2

以下のようなコメントの記述があった。日本語表記のコメントは原文のまま、ハングル表記のコメントは日本語訳を記載する。

- 1) 今まで接することができなかった日本文化について、もっと具体的に理解できた。これからももっと関心を持って学校で活用したい。(2005年度日本語訳)
- 2) 全部おもしろかったんです。ちょっとだけですが日本語になれたような気がします。
(2005年日本語訳)
- 3) 全部面白かったので、順番が決められません。テーマ1は深い日本語を、2と3は軽い日本語が楽しめました。たくさん資料に接したいです。(2005年日本語訳)
- 4) (テーマ1の七五調は)新しいことをならった。(テーマ3落語は)面白かった。
(2005年日本語で記述)
- 5) 15のリズムにあっしゅくするのは、むずかしかったのですが、それがいちばんおもしろかったんです。(2008年)
- 6) なぞなぞをもう少しやってみたかったが、時間が足りなかった。やはりかけた時間が多い分、俳句や川柳がおもしろかった。(2008年)
- 7) 時間が足りなかったので残念です。(2008年)
- 8) 句会、おもしろかったんですよ。はじめて接してみて。(2009年)
- 9) ほんとうに貴重な経験でした。(2009年)
- 10) はやすぎて (2009年)

以上の数字を見てみると、2005年度は、2-3-1、つまり1) 言葉遊び、3) 落語、2) 七五調(川柳・俳句・標語)を選んだ研修生が多く、テーマ2の言葉遊びが人気があったよ

うだ。2008年、2009年度と比べると、2005年は、落語が面白いとする回答が多い。2008年、2009年になると1) 七五調 (川柳・俳句・標語) を面白いとする回答が多く、落語は2005年度ほどではない。

研修プログラムには、毎年、文化体験、山や海などで自然に親しんだり、国立美術館見学などが組み込まれている。筆者は、2005年の特集の授業には携わらなかったが、2006年から2009年までの「特集」授業を担当した。2006, 2007, 2008年には、特集の授業は、丁度この文化体験の週にあたり、その機会を生かして研修生に吟行を経験させた。授業外でも、戸外を歩きながら研修生たちと俳句の話ができ、実際に何をどう詠むか、対象を前にして話はずんだ。そのような経緯も研修生の興味を喚起する一助となったのではないかと考える。

2009年は、文化体験の週には、まだ特集の授業が始まっていなかった。それでもアンケートに答えた研修生の半数以上が七五調を選んでいて、2005年度に比べると、日本語力に余裕のある研修生が増え、相対的に他のテーマが易しく感じられ、俳句を選ぶ研修生が多かったのかもしれない。次の難易度との関連を見てみよう。

4.5.2 難しさ

テーマ毎の難易度については、以下のような結果を得た。

表7 難しさの順位

	1-2-3	1-3-2	2-1-3	2-3-1	3-1-2	3-2-1
2005年	9	11	3	6	4	6
2008年	4	3	1	2	5	10
2009年	2	4	0	1	8	5

表8 難しさ

	1	2	3
2005年	20	9	10
2008年	7	3	15
2009年	6	1	13

以下のようなコメントの記述があった。原文のまま記載する。

- 1) 難しくなかった (2名) (2008年)
- 2) 落語をしてみるのには、とても大変なことでした。(2008年)
- 3) 俳句のほうは、詠むのが難しくて、大変なところもありましたし、まちがいだらけで

したが、でも、日本の言語芸術の中で花みたいなものではないかと思って、一番楽しかったし、もっと勉強したいと思います。(2008年)

- 4) (難しかったものは) あまりない。×2 (2009年)
 5) 日本語のリズム、七五調で作るということが難しかったです。(2009年)

2005年度の研修生には、テーマ1の七五調(川柳・俳句・標語)が難しいと感じられたようだ。2008年、2009年の研修生は、テーマ2)言葉遊びには、あまり難しさを感じていない様子がうかがえる。難しさに関しては、2008年、2009年で落語が点が高い。2005年は教科書の落語のみ扱った。教材として使用した落語「平林」は、このレベルの研修生を対象に、この研修のために本職の噺家さんに語ってもらった録音である。ややゆっくりで、内容も分かりやすい。2008年、2009年では、研修生の日本語力に合わせて、NHKの落語の紹介番組の録画を使用し、インターネットから落語家協会の紹介ビデオにアクセスし、DVDの「絵本寄席」を副教材として使用するなどの工夫をした。2009年には、研修生に小咄をインターネットで探させ、各自練習をし、クラスで発表をするという課題を出した。「(全般に)あまり難しくなかった」というコメントが2人からあるが、筆者の観察では、落語を理解するのが難しかったと感じているようには見えなかった。教科書の「平林」だけを対象にしたのであれば、2008年、2009年の「落語」の難易度は低かったと考える。教科書以外の補助教材を使用した結果、1番になったのではないと思われる。

「落語をしてみるのには、とても大変なことでした。(2008年)」というコメントがあるが、これは、選択科目との関連のコメントと思われる。研修プログラムは、必須科目と選択科目があり、2008年度に筆者が担当した選択科目³⁾は、「日本語を楽しむ」の延長として、「創作倶楽部」という名称で、俳句・川柳の他に、小咄や落語を演じてみる、という活動を行った。必須科目である特集では、実際に落語を演じてみることはなかった。

4.5.3 さらなる興味

今回の授業をきっかけにさらに自主的に学んでみたいものの順位を尋ねた。

表9 さらなる興味の順位

	1-2-3	1-3-2	2-1-3	2-3-1	3-1-2	3-2-1
2005年	11	8	8	5	4	2
2008年	13	2	8	0	1	3
2009年	6	4	4	1	1	1

表10 さらなる興味

	1	2	3
2005年	19	13	6
2008年	15	8	4
2009年	10	5	2

以下のようなコメントの記述があった。原文のまま記載する。

- 1) 俳句を理解するのに役に立ったし、自分でもっと勉強しようと思った。

(2005年度日本語訳)

- 2) 全体的に時間が少なすぎる (2008年)

(さらに勉強を深めたいと思うものは) あまりない。(2008年)

研修の授業以外で、さらに勉強を続けていこうとは思っても、なかなか機会にめぐまれないと難しい。テーマ1の俳句・川柳、テーマ2のなぞなぞなどの言葉遊びは、比較的関わりを持ち易いが、落語になると日常で接する機会もほとんどないであろう。それでもあえてテーマ3の落語を選んだ研修生が2005年に6名もいたことは意外であった。

4.5.4 日本語知識、能力向上への貢献

日本語能力向上、および日本文化に関する知識を広げるという意味で役に立ったと思う順位を尋ねた。

表11 日本語知識、能力向上に役立つの順位

	1-2-3	1-3-2	2-1-3	2-3-1	3-1-2	3-2-1
2005年	11	10	15	1	3	1
2008年	14	4	7	1	1	2
2009年	7	1	5	3	2	0

表12 日本語知識、能力向上に役立つ

	1	2	3
2005年	22	17	4
2008年	19	8	3
2009年	8	8	2

2005年に1, 2のみ選んだ回答が1つ、2008年に1のみ選んだ回答が1つあったので、それを加える。

以下のようなコメントの記述があった。原文のまま記載する。

(自分の日本語知識、能力向上に役に立ったものは) あまりない。(2009年)

テーマ1 俳句・川柳の回答が多いのが特徴的だ。大学での日本語の勉強で俳句について学んだという研修生も何人かいて、このテーマは日本文学、文化との結びつきが強く感じられるのではないだろうか。落語はなじみが薄く、まだまだ入り口に立ったにすぎないという自覚があるのかもしれない。まだまだ奥が深そうで、それが直接日本語力の向上に役に立ったとは、評価できないでいるのではないだろうか。

4. 5. 5 日本語教育への貢献

現職日本語教師として、現場での日本語授業に役に立つと思う順位を尋ねた。

表13 日本語教育に役立つの順位

	1-2-3	1-3-2	2-1-3	2-3-1	3-1-2	3-2-1
2005年	6	4	15	11	0	0
2008年	11	2	11	0	1	2
2009年	6	2	5	2	1	1

表14 日本語教育に役立つ

	1	2	3
2005年	13	29	0
2008年	13	11	3
2009年	8	7	2

2005年に1, 2のみ選んだ回答が1つ、2008年に1, 2のみ選んだ回答が1つ、2009年に1, 2のみ選んだ回答が1つあったので、それを加える。

以下のようなコメントの記述があった。原文のまま記載する。

(自分の日本語教育に役に立ったものは) あまりない。(2009年)

学生のすいじゅんがあまり.... (2008年)

1つぐらい作品を紹介してもいいかな、と思いました。でも、中学生のレベルでは難しそうですね。(2009年)

研修生が職場で日本語を教える時に役に立ちそうと考えるのはテーマ2が多く、次いでテーマ1であった。テーマ2は「なぞなぞ」と3, 4, 5拍で最初の文字を同じにして作る

「うしのうしろ」という短い詩の創作があり、それらは中学校、高校で若年の日本語学習者になじみ易いものであろう。テーマ3の落語は、コメントにもあったように中学生や高校生では難しいのであろう。アンケート外で、教師自身が精通していない教材であり、短い授業時間内で扱うのは困難だ、との声も聞かれた。

4.5.6 声を出しての練習

本教材は、日本語のリズムを体得することが大きな課題である。現職の日本語教師が声に出して、一斉にコーラスして練習するという学習機会はあまりないと考える。そこで、実際そのような練習をしてみた感想を尋ねた。表の記号ア〜クは以下のものに対応する。

ア. 川柳	イ. 俳句	ウ. 標語	エ. うしのうしろに	オ. 同音異義語
カ. なぞなぞ (声には出しませんでした)	キ. こばなし	ク. 落語の名前を言う		

表15 声を出して練習する 1) 面白さ

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
2005年	4	1	0	6	2	22	0	4
2008年	9	7	2	5	4	3	1	2
2009年	8	7	0	2	1	2	3	0

表16 声を出して練習する 2) 難しさ

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
2005年	5	19	0	0	10	3	0	2
2008年	2	9	0	0	9	5	0	5
2009年	0	8	0	0	3	1	0	5

表17 声を出して練習する 3) 意味がない

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
2005年	0	0	7	0	2	2	0	0
2008年	0	1	4	0	1	1	0	4
2009年	1	1	0	1	2	1	2	2

以下のようなコメントの記述があった。日本語訳を記載する。
言葉遊び、同音異義語、シャレ、擬声語、なぞなぞは自分の中にあった日本語を呼びさましてくれた。(2005年日本語訳)

面白さでみると、2005年度のカ「なぞなぞ」が特出している。2008年、2009年は俳句・川柳を声を出して練習するのが面白い を選んだ研修生が多い。これは、テーマ毎の面白さの評価とも一致する。

難しさにおいては、2005年は、イ「俳句」とオ「同音異義語」を選ぶ研修生が多い。これもテーマ別難しさの順位と一致する。オ「同音異義語」は、2008年の研修生も難しいと感じているが、アクセントの違いで意味が異なる同音異義語の、アクセントの違いを実現するのに難しさを感じたものであろう。

意味がないという活動は、少なかったとみてよいのではないだろうか。2005年は、ウ「標語」を選んだ研修生が多い。2008年も4名が選んでいる。ウ「標語」に関しては、面白さ、難しさという面からもあまり選ばれていない。声を出して練習するかいなかではなく、標語自体があまり興味をもたれなかったのではないだろうか。

2005年には、1名が「面白い」「難しい」の両方にア川柳、カナぞなぞを選び、また「難しい」「意味がない」の両方でイ俳句を選んだ研修生が1名いた。2008年度は、「面白い」「難しい」の両方でア川柳、イ俳句を選び、「難しい」「意味がない」でク落語の名前を言うを選んだ研修生がそれぞれ1名いた。2009年は、「面白い」「難しい」の両方でイ俳句を選んだ研修生が2名、「難しい」「意味がない」でイ俳句を選んだ研修生が1名いた。なぞなぞは2005年の研修生に好まれたようである。

声を出して練習するでは、ウ標語が比較的多い。日常生活では標語こそ声に出して言うことに意味があるが、あまり人気がなかった。標語の持つ教育的内容が影響を与えているのではないだろうか。

4. 5. 7 暗記・暗唱・模倣学習について

日本語教師として授業でこのような方法が有効と考えるかどうかを尋ねた。

表18 暗記・暗唱・模倣学習について

	役に立つ	あまり役に立たない	役に立たない	その他
2005年	32	7	0	0
2008年	27	1	0	1
2009年	11	6	1	0

以下のようなコメントの記述があった。日本語訳を記載する。
リズムに合わせてマネする方法は、高校の授業現場で役に立つと思う。単語を簡単に覚えることができそうだ。(2005年日本語訳)

エその他を選んだ研修生が書いた理由を以下原文のまま記載する。

面白かったが、授業の時間が短かったのがざんねんだった。日本語を楽しむというのがとてもおもしろかったです。(2008年)

暗記・暗唱・模倣学習に関しては、研修生は、おおむね肯定的と言えるであろう。

4.5.8 落語について

落語を教材に学ぶことは、研修生にとって恐らく新しいことであろうと考え、研修初年度の2005年度に、落語に関しての感想を尋ねた。

表19 落語について

	楽しめた	他の落語は説明がないと難しい	自分の実力では楽しめなかった	あまり興味を持てなかった
2005年	22	12	5	1

以下のようなコメントの記述があった。日本語訳を記載する。

この落語は教材として使うために特別にわかりやすく作ったものだと知っている。日本人が楽しむ代表的な落語を聞く練習がもっとしたい。(2005年)

落語に関して肯定的な様子が見える。2005年度の研修生は、「落語の名前を言ってみる」という暗唱活動も4名が面白いと選び、面白さの順位でも俳句・川柳の七五調より落語を選ぶ研修生が多く、相性がよかったようだ。

4.5.9 コメントから見る各年度の研修生の傾向

以下、各年度で、数多く寄せられたコメントを紹介し、各年度の研修生の傾向、特徴を考察する。

2005年

- 1) 標語と川柳が今の日本を知るのに役に立ちました。
- 2) 日本の文化、言葉あそびなどについて、きょうみをもっと持つようになりました。役に立ちました。
- 3) あまり接することができない内容が多くて、難しいところもあったが、だいたい面白い授業でした。もっと多くの資料が見たいです。(日本語訳)
- 4) 面白かった。新しいことを学んだ。(日本語訳)
- 5) この特別教材で、日本文学や日本語に興味もわいて、魅力を感じるようになり、とても有益だった。(日本語訳)

- 6) とても有益だった。実際、七五調に合わせて吟ずることも面白かったし、直接作品を作ったことも良い経験だった。私も作品が作れるという自信を持てた。日本語の勉強を始めて以来、このような勉強をしたことがなくてとても新鮮だった。(日本語訳)

以上のように新しいことを学び、新鮮で興味がわいた、という内容が多かった。研修初年度の研修生は、現場での教員経験が長く、日本語学習の機会から遠ざかっていた研修生が多かったようで、「興味がわいた」「魅力を感じるようになった」など刺激を与えられ、今後の自身の日本語学習への動機付けになった、という内容のコメントが多く見られた。

2008年度

- 1) ことばのニュアンスがわかって勉強になりました。3, 4, 5 (頭韻詩) の現代詩は、生徒にさせてみたいと思います。
- 2) 川柳・俳句を実際に作ったことは初めてです。一番ユニークな経験だったと思う。
- 3) 大学の時「日本文学」に講義の時間に先生から理論的に教えてもらったこと (俳句、頭韻詩など) を実際に作ってみておもしろくて、勉強になりました。
- 4) 全員が選句をするのは、どうですか。(けいじばんにならび、はっておくのを一句だけえらぶ。) おもしろそうです。
- 5) この時間に習ったことは、はじめてです。勉強する時間があまり多くなかったので正直に言ってよくわからない部分もあると思います。もっと時間を持って習いたいです。
- 6) もっと勉強したいです。韓国で俳句を教えてもらう方法はないのでしょうか。
- 7) 動物の鳴き声とか、なぞなぞとかは生徒たちを教えるのに役に立つようだ。
- 8) テーマが多すぎました。3時間ぐらい全テーマについてあじわってみてから、いくつかのこまかいテーマごとにクラスをわけて深化授業をやってみてはどうでしょうか。

2008年度の研修生は日本での日本語学習経験、日本語教育研修経験、私用での来日経験の豊富な研修生が多かった。教師経験も豊かで全般に日本語力も高かった。この年度の研修生のコメントは、より具体的な提案が多く見られた。また自分たちの現場の授業での応用についても記述があった。

2009年度

- 1) とてもおもしろくて役に立ちました。俳句とかはむずしくてたいくつな物だと思っていましたが今は考えが変わりまして、とても好きになりました。落語、小ばなし、せんりゅう、なぞなぞなどいろんな日本語のおもしろさを感じることができてよかったです。

- 2) 俳句はとてもおもしろかったです。句会も新しい経験でした。
- 3) 句会というのがはじめてだったんですが、本当におもしろかったです。俳句を作ることも私にとっては、とてもいいきっかけになるだろうと思います。
- 4) 俳句・川柳の創作をやりながら、いろいろな単語の意味を考えたり、日本語で想像してみたりして、とても楽しかったです。
- 5) なぞなぞは実際の授業で活用してみたいと思いました。

この年度の研修生は、これまでの研修の中で若手の研修生が一番多く、従って現場での経験が浅い。全体として、自身の日本語学習にとってどうであったかという視点で捉える記述が多かった。

5. まとめと今後の発展

2008年、2009年の研修生は俳句・川柳の七五調の方を面白いとする傾向がうかがえたが、これは教材化した落語によるのではないかと思われる。研修当初の2005年に比べ、2008年、2009年の研修生の日本語力の向上、来日経験の多さなどから、教材化した落語のスピードや内容があまり挑戦的ではなかったのではないかと思われる。

2007年には、落語の教材作成に協力いただいた柳家さん喬師匠の落語会がソウル、日本文化会館において開催され、多くの研修生が参加した。教材化された落語より、かなり難解な落語を楽しんだのだが、話芸によって言葉の壁を越えられること、言葉をすべて知らなければ話が理解できない、ということはないことが証明された。

2005年度から始まった研修は5年を経て、研修生の年齢層、それに伴う日本語教育歴、そして日本語力に大きな変化が見られた。研修で使用する教材の難易度、新奇さが見直されなければならない時期である。特集に限ってみても、俳句、頭韻詩などは普遍的な面が大きい。川柳などはその時々を映す鏡のようなものであるから、やはり最新のものをこそ使用したい。幸いなことに、インターネットを利用することで、それが手に入る。例えば、川柳などは、第一生命のHPで各年の応募川柳を紹介している。

教科書「特集—日本語を楽しむ—」とその授業の果たした役割をあらためて考えてみると、落語を始め、正規の授業科目としては従来積極的にとりあげられてこなかったテーマをあえて取り上げたことで、研修生にはあまりなじみのなかった分野に目を向けさせることができたということなのではないだろうか。外国語学習において母語話者と同じく笑いを理解するのは難しい。それができれば、その言語をかなりのレベルまで習得したと言えるだろう。しかし、笑いの要素を分解し、それらの説明を段階を追って一段ずつ進めて行けば必ずゴール、「笑い」にたどり着くことができる。落語の教材化はそのいい例であっただろう。

日本語教育現場での応用という視点から考察すると、七五調のリズムの習得という目標が十分に達成できなかったのではなかったかと反省する。俳句・川柳を暗唱することでそのリズム、拍感覚を身につけてもらいたいと考えていたのであるが、こちらが期待したほど研修生の関心は、そこには向かなかったようだ。「自分が熟知していないものを教材として使うのは心配だ」というコメントがあった。俳句・川柳などは、日本独自の文化として考えられていて、研修生は、自分が教養として学ぶにはよいが、現場の日本語授業に応用することには、さほど積極的ではなさそうであった。背景には、教師自身、つまり研修生が自身の日本語のイントネーション、アクセントに対して確信がもてないということがあるのかもしれない。実際、この研修の授業で研修生の拍感覚の弱さが見えた。筆者が授業で観察したところでは、研修生の高低アクセントの習得に俳句・川柳の暗唱練習は役に立っていたと考える。日本語教育現場で研修生が生徒に拍感覚を教える際の教材としても役立つと考え、制作した教材でもある。短い授業時間内での練習には限りがあるが、暗唱練習によって研修生が自身の拍感覚、アクセントの癖に気づき、さらなる研鑽を積む動機付けになることを期待し、その役に立つような工夫を教材に加えていきたいと考えている。

注

1. 姜星鎮 (2006)、姜星鎮・許明子 (2006)
2. 酒井たか子・高橋純子 (2006)
3. 許明子 (2007) pp.266-267

参考文献

- 姜星鎮 (2006) 「京畿道外国語教育研修院現職日本語教師研修プログラムが始まるまで」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』 21 : 255-259
- 姜星鎮・許明子 (2006) 「京畿道外国語教育研修院現職日本語教師のための研修実施報告—2005年度韓国国内研修の実施について—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』 21 : 261-271
- 許明子 (2007) 「京畿道外国語教育研修院現職日本語教師研修の実施報告—2006年度韓国国内研修の実施について—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』 22 : 47-56
- 三枝優子 (2002) 韓国の日本語教育事情 立教大学教育研究所紀要第11号 2002 HP
- 酒井たか子・高橋純子 (2006) 「京畿道外国語研修院教材「日本語を楽しむ」の制作意図と発展」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』 21 : 201-225

資料1 教材アンケート

特集「日本語を楽しむ」 教材に関する質問

今回の「日本語を楽しむ」の教材について意見をお聞かせください。

1. 特集「日本語を楽しむ」の全体を通しての感想をお聞かせください。(あてはまるものいくつかでも○を書いてください。)

1) 特集「日本語を楽しむ」は

- ア () 自分の日本語能力を高めるという意味で役に立った。
イ () 自分の日本語能力向上という意味ではあまり役に立たなかった。
ウ () 自分の日本語教育の幅^{はば}を広げたり、応用^{おうよう}するのに役に立った。
エ () 自分の日本語教育への応用という意味ではあまり役に立たなかった。
オ () その他 ()

何かコメントがありましたらお書きください。(한국어 기입하셔도 됩니다.)

2) 特集「日本語を楽しむ」は、あてはまるもの一つに○を書いてください。

^{なんいど}
難易度

- ア () 全体的にやさしかった。
イ () ちょうどよい難易度だった。
ウ () 全体的に難しかった。

難易度について、何かコメントがありましたらお書きください。(한국어 기입하셔도 됩니다.)

関心度と発展 (あてはまるものいくつかでも○を書いてください。)

- ア () 簡単な言葉を使った創作活動を楽しめた。
イ () 母国語や外国語での言葉を使ったいろいろな遊び^{きょうみ}に興味を持った。
ウ () 日本語のリズムや音に対して以前より敏感^{びんかん}になった、あるいはこれから敏感になるように思う。
エ () 自分自身や学習者の言い間違い^{まちが}や聞き間違いを楽しめるようになった、あるいはこれから楽しめるだろう。
オ () 自分の日本語授業で採用^{さいよう}、あるいは少し形を変えたりして応用してみようと思った。
カ () このタイプの活動はあまり好みではない。

その理由を構わなければお教えください。(한국어 기입하셔도 됩니다.)

2. 各テーマごとに感想をお聞かせください。

- (1) 日本語のリズム 七五調 川柳、俳句、標語、現代詩
(2) 言葉あそび 同音異義語、シャレ、オノマトペア、なぞなぞ
(3) 落語「平林」

1) 3つの中で面白かった順に番号を書いて下さい。

() () ()

何かコメントがありましたらお書きください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

2) 難しかった順に番号を書いてください。

() () ()

何かコメントがありましたらお書きください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

3) さらに勉強を深めたいと思う順に番号を書いてください。

() () ()

何かコメントがありましたらお書きください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

4) 自分の日本語能力向上、および日本文化に関する知識を広げるという意味で特に役に立ったと思う順に番号を書いてください。

() () ()

何かコメントがありましたらお書きください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

5) 自分の日本語授業の幅を広げたり、応用したりするのに役に立ったと思う順に番号を書いてください。

() () ()

何かコメントがありましたらお書きください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

3. この教材では覚えて、声に出して言ってみるといものがいくつかありましたが、

1) どれが一番面白かったですか ()

2) どれが一番難しかったですか ()

3) あまり意味がなかったものはどれですか ()

その理由を構わなければお教えください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

ア. 川柳 イ. 俳句 ウ. 標語 エ. うしのうしろに オ. 同音異義語 カ. 落語の名前を言ってみる

4. ある文章を覚えたり、繰り返し言ってみたり、リズムを真似てみる学習方法について意見を聞かせてください。

ア () 全般的^{ぜんぱんてき}日本語能力向上に役に立つ

イ () 面白いがあまり役に立たない

ウ () 役に立たない

エ () その他 ()

何かコメントがありましたらお書きください。(한국어 기입하셔도 됩니다.)

6. その他、何でも気が付いたこと、感想、意見、提案などありましたら、お書きください。(한국어 기입하셔도 됩니다.)

ご協力ありがとうございました。

(韓国語版)

특집 「日本語を楽しむ」 교제에 관한 질문

교제 「日本語を楽しむ」 에 관한 의견을 부탁드립니다.

성명 (무기명도 상관 없음)

연령 ()세 (가능하면 기입 요망)

일본어 학습 기간 ()년

성별 : 남 · 여

일본어 이외의 외국어 교육 자격 유·무 → 有 · 無 (해당 사항에 체크 요망)

있는 경우 해당 언어를 기입해 주십시오. ()

5. 특집 「日本語を楽しむ」 에 대한 전반적인 감상을 부탁드립니다. (해당 사항에 0 를 표시해 주십시오)

1) 특집 「日本語を楽しむ」 는

ア () 자신의 일본어 능력을 향상시키는데 도움이 되었다.

イ () 자신의 일본어 능력 향상에 별로 도움이 되지 않았다.

ウ () 자신의 일본어 교육의 폭을 넓히고, 교육에 응용하는데 도움이 되었다.

エ () 자신의 일본어 교육에 응용하는데 별로 도움이 되지 않았다.

オ () 기타 ()

위의 항목 이외의 의견이 있으시면 기입해 주세요.

2) 특집 「日本語を楽しむ」 는、(해당 사항에 0 를 표시해 주십시오)

난이도

ア () 전체적으로 쉬웠다.

イ () 적당한 난이도였다.

ウ () 전체적으로 어려웠다.

난이도에 관한 의견이 있으시면 기입해 주세요. 관심도와 발전 (해당 사항에 0 를 표시해 주십시오)

ア () 간단한 어휘를 사용한 창작활동이 즐거웠다.

イ () 모국어와 외국어 어휘를 사용한 여러가지 놀이에 흥미를 갖게 되었다.

ウ () 이전보다 일본어 리듬과 음에 민감해 졌다. 또는 앞으로 일본어 리듬과 음에 더욱 관심을 갖을 것 같다.

エ () 교제에 나온 언어유희를 즐기는 시간을 가지므로써 자신과 학습자의 말하기, 듣기에 있어서의 실수를 즐길 수 있게 되었다.

オ () 자신의 일본어 수업에 이용하거나 아니면 조금 형식을 바꿔서 응용해 보고 싶다는 생각을 했다.

카 () 이런 형식의 활동은 별로 선호하지 않는다.

이유가 있으시면 기입해 주십시오.

6. 각 테마별 감상을 부탁드립니다.

(1) 일본어 리듬, 7.5 조(七五調), 센류(川柳), 하이쿠(俳句), 표어 (標語), 현대시(現代詩)

(2) 언어유희(言葉あそび), 동음이의어(同音異義語)、동음이의어를 이용한 익살(シヤレ)、의성어(オノマトペ)、수수께끼(なぞなぞ)

(3) 라쿠고(落語) 「히라바야시(平林)」

1) 세 개 중에 재미있었던 순서대로 번호를 기입해 주십시오.

() () ()

관련 의견이 있으면 기입해 주십시오.

2) 어려웠던 순서대로 번호를 기입해 주십시오.

() () ()

관련 의견이 있으시면 기입해 주십시오.

3) 좀 더 공부를 해보고 싶다고 생각한 순서대로 번호를 기입해 주십시오.

() () ()

관련 의견이 있으시면 기입해 주십시오.

4) 자신의 일본어 능력 향상 및 일본 문화에 관한 지식을 넓히는데 도움이 되었다고 생각한 순서대로 번호를 기입해 주십시오.

() () ()

관련 의견이 있으시면 기입해 주십시오.

5) 자신의 일본어 수업의 폭을 넓히는데, 또는 수업에 응용하는데 도움이 되었다고 생각한 순서대로 번호를 기입해 주십시오.

() () ()

관련 의견이 있으시면 기입해 주십시오.

7. 이번 교재에 암기해서, 소리를 내어 말해보기 활동이 있었는데, 그 중에서

1) 어떤 것이 제일 재미있었습니까? ()

2) 어떤 것이 제일 어려웠습니까? ()

3) 별로 의미가 없었다고 생각되어지는 것은 무엇입니까? ()

관련 의견이 있으시면 기입해 주십시오.

ア. 센류(川柳) イ. 하이쿠(俳句) ウ. 標語(표어) エ. 우시노우시로니(うしのうしろに) オ. 동음이의어(同音異義語) 카. 라쿠고에 나왔던 히라바야시의 이름을 말해보다(落語の名前を言ってみる)

8. 문장을 암기하거나, 반복해서 말해 보거나, 리듬에 맞추어 따라해 보는 학습 방법에 대한 의견을 부탁드립니다.

ア () 전반적으로 일본어 능력 향상에 도움이 되었다.

イ () 재미는 있었지만, 별로 도움이 되지 않았다.

ウ () 도움이 되지 않았다.

エ () 기타 ()

관련 의견이 있으시면 기입해 주십시오.

5. 라쿠고에 관한 의견을 부탁드립니다. (해당 사항에 0를 표시해 주십시오)

ア () 라쿠고가 재미있었다. 기회가 있으면 다른 라쿠고도 들어보고 싶다.

イ () 이번 라쿠고는 재미있었지만, 다른 라쿠고는 설명이 없으면 모를 것 같다.

ウ () 자신의 실력으로 라쿠고를 즐기는 수준까지는 미치지 못했다.

エ () 라쿠고에 별로 흥미가 생기지 않았다.

이유가 있으시면 기입해 주십시오.

6. 상기의 이외에 감상, 의견, 제안 등이 있으시면 무엇이든 상관없으니, 모두 기입해 주십시오.

감사합니다.